

## 『学科専攻別3つのポリシー』

### 〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

#### 1. 史学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

史学科では、バランスのとれた歴史観と視野の広い国際感覚を持ち、絶えず変化する社会において、歴史的視点から新たな問題への対処方法を見出すことのできる人材を育成することを目指しています。そのために、3年間の専門課程教育を通して、卒業までに以下のような力を養うことを期待します。

- 1.我々の社会に生起するさまざまな事象について、歴史的な背景や社会の成り立ちを理解したうえで分析・評価する力。現実の問題に適切に対処するための知識と判断力。
- 2.教育機関、官公庁や企業などの職場や日々の社会生活において直面するさまざまな問題に対応しうる緻密な思考力と、問題解決に向けて計画を立てる力。
- 3.過去から現在にいたる日本および世界の文化や社会について、資料や情報を収集する力。また、その資料や情報を自ら分析する力。
- 4.多様な文化や社会の歴史的成り立ちに関する理解に基づく、高度なコミュニケーション能力と、主体性を持ちつつ周囲と協働する姿勢。
- 5.歴史知識と十分な情報をもとに考え、その考えを口頭発表や文章の著述を通して、自らの言葉で他者にわかりやすく的確に表現する力。

## 『学科専攻別3つのポリシー』

〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

### 2. 史学科の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

史学科は、日本史コース、世界史コースに分かれており、必修科目、選択必修科目に加えて、「日本史系列科目」「世界史系列科目」「史学共通科目」を履修するカリキュラムを採用しています。

2年次生は、日本史コースは「日本史演習Ⅰ」「日本史史料論」、世界史コースは「世界史演習Ⅰ」「世界史文献講読Ⅰ」を中心に、それぞれが所属する日本史または世界史コースの教員全員から、幅広い時代や地域のテーマを通じて、大学で歴史を学ぶための基礎を学びます。

3年次生は、日本史コースは「日本史演習Ⅱ」、世界史コースは「世界史演習Ⅱ」を履修します。それにより、各自が関心を持つ研究テーマについて、専門的な歴史研究を始めます。同時に、広い歴史的視野を養う目的で、学科の様々な専門的講義も受講します。

4年次生は、自ら設定したテーマを学問的に探究し、卒業論文を執筆します。日本史コースは「日本史演習Ⅲ」、世界史コースは「世界史演習Ⅲ」を履修し、漢文史料や外国語文献を正確に理解する力を強化します。あわせて、2年次、3年次で身に付けてきた情報収集力、分析力、論理的な文章力をさらに高めます。それらの集大成として、ゼミの教員の指導のもと、卒業論文を完成させます。

## 『学科専攻別3つのポリシー』

### 〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

#### 3. 史学科の進学生・編入学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

史学科では、日本史と世界史の別にかかわらず、歴史に対する強い好奇心をもち、過去や異文化に対する誤解や思い込みに気づけるような柔軟な姿勢を備えた人に進学してもらいたいと考えています。そのため、高等学校では、次のような学びを深めて欲しいと考えています。

1. 地理歴史科の日本史や世界史などの科目を通じて、歴史や地域に関する正確な知識を身につけておく必要があります。また、同時に日本史コースでは古文や漢文、世界史コースでは英語などの外国語の技能が求められます。
2. 卒業論文を作成するためには高い思考力・判断力・表現力が求められますので、国語や現代文に親しんでいることはもちろんとして、数学や理科などの授業で必要とされる論理的思考に慣れていることも望まれます。
3. 演習科目では主体性を持ちつつ周囲と協働して学ぶ態度が必要とされますので、課外活動などによって、多種多様な人々と接する経験を多く積み重ねていることが大切です。編入学生についても、上記のアドミッション・ポリシーを満たした学生生活を送っていることが求められます。